

# 平成22年度 主要建設資材需要見通し

国土交通省総合政策局建設市場整備課

## 1 はじめに

国土交通省では、建設資材の安定的な確保を図り、円滑な建設事業の推進に資することを目的として、昭和51年度より「主要建設資材需要見通し」を毎年公表している。

本稿では、平成22年6月28日に公表した「平成22年度主要建設資材需要見通し」の概要を報告する。

## 2 対象建設資材

平成22年度主要建設資材需要見通しでは、「①セメント」「②生コンクリート」「③骨材、砕石」「④木材」「⑤普通鋼鋼材、形鋼、小形棒鋼」および「⑥アスファルト」の6資材9品目を対象とし、需要見通しを推計・公表している。

## 3 需要見通しの推計方法

平成22年度主要建設資材需要見通しは、「平成22年度建設投資見通し（国土交通省総合政策局情報安全・調査課建設統計室平成22年6月25日公表）」の建築（住宅、非住宅）、土木（政府、民間）等の項目ごとの建設投資見通し（実質値）に、建設資材ごとの原単位（工事費100万円当た

りの建設資材需要量）を乗じ、さらに各建設資材の需要実績等を考慮して国内需要の推計を行う。

## 4 平成22年度主要建設資材 需要見通し

### (1) 概況（平成21年度および平成22年度）

平成21年度の主要建設資材の需要量実績は、同年度の建設投資見込み（実質値）が前年度比8.6%の減少で、うち政府建設投資は7.5%の増加、民間建設投資は16.9%の減少となったことから、アスファルトは増加、セメント、生コンクリート、骨材、木材および普通鋼鋼材は減少となった。

平成22年度の主要建設資材の需要見通しは、同年度の建設投資見通し（実質値）が前年度比5.9%の減少で、うち政府建設投資は20.0%の減少、民間建設投資は3.5%の増加と見通されていることから、セメント、生コンクリート、骨材およびアスファルトが減少、木材が増加、普通鋼鋼材が概ね横ばいと見通される。平成22年度主要建設資材需要見通しは、図1および表1のとおりである。

### (2) 主要建設資材の需要見通し

#### ① セメント、②生コンクリート

平成21年度における需要量実績は、セメントが前年度比14.7%減少の4,273万t、生コンクリート

図 1 平成22年度主要建設資材需要見通し

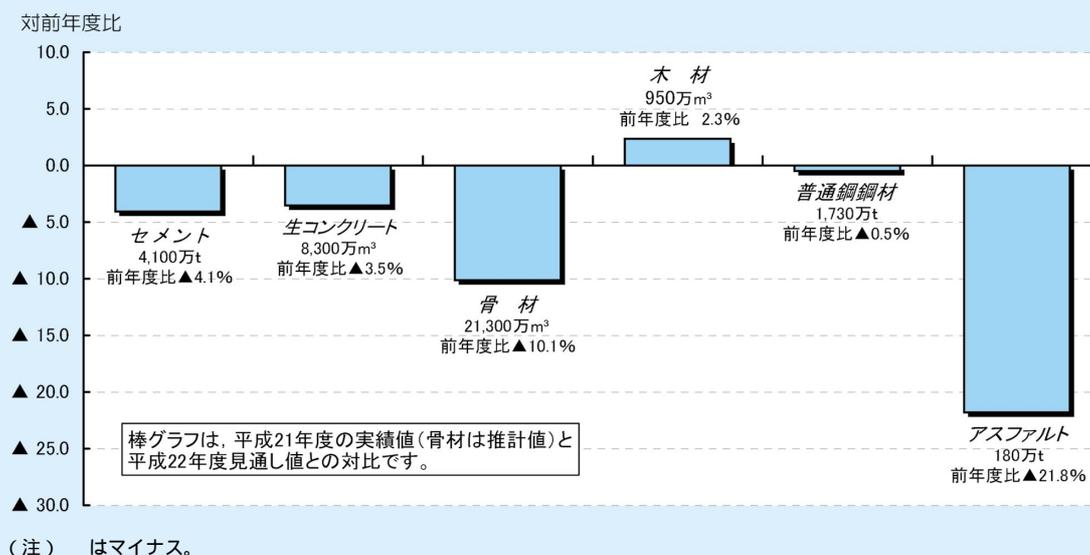


表 1 主要建設資材需要量 (H20~22年度)

資材名称	単位	需要量			伸び率	
		H20年度 実績値	H21年度 実績値	H22年度 見通し	21/20	22/21
セメント	万t	5,009	4,273	4,100	14.7%	4.1%
生コンクリート	万m³	10,101	8,603	8,300	14.8%	3.5%
骨材	万m³	28,500	23,700	21,300	16.8%	10.1%
砕石	"	13,611	11,395	10,300	16.3%	9.6%
木材	万m³	1,081	928	950	14.1%	2.3%
普通鋼鋼材	万t	2,124	1,738	1,730	18.2%	0.5%
形鋼	"	474	370	390	22.0%	5.5%
小形棒鋼	"	872	736	720	15.6%	2.2%
アスファルト	万t	188	230	180	22.3%	21.8%

- (注) 1. 本見通しは、「平成22年度建設投資見通し(国土交通省総合政策局情報安全・調査課建設統計室平成22年6月25日公表)」をもとに推計したものである。  
 2. 各資材の対象は、セメントは〔内需量〕、生コンクリート、砕石は〔出荷量〕、木材は〔製材品出荷量〕、骨材は〔供給量〕、普通鋼鋼材、形鋼は〔建設向け受注量〕、小形棒鋼は〔建設向け出荷量〕、アスファルトは〔建設向け等内需量〕。  
 3. 本見通しの有効数字は、セメントは〔100万t〕、生コンクリート、骨材および砕石は〔100万m³〕、木材は〔25万m³〕、普通鋼鋼材、形鋼および小形棒鋼は〔10万t〕、アスファルトは〔5万t〕。  
 4. 平成21年度の需要量のうち、骨材、砕石については推計値を使用しているため、見込み値(斜体)。その他の資材については実績値。  
 5. ▲はマイナス。

が前年度比14.8%減少の8,603万m³であった。平成22年度については、セメントが前年度比4.1%減少の4,100万t、生コンクリートが前年度比3.5%減少の8,300万m³と見通される。

③ 骨材、砕石

平成21年度における需要量実績は、骨材が前年度比16.8%減少の23,700万m³、砕石が前年度比

16.3%減少の11,395万m³となったと推計される。平成22年度については、骨材が前年度比10.1%減少の21,300万m³、砕石が前年度比9.6%減少の10,300万m³と見通される。

④ 木材

平成21年度における需要量実績は、前年度比14.1%減少の928万m³であった。平成22年度につ

いては、前年度比2.3%増加の950万m<sup>3</sup>と見通される。

⑤ 普通鋼鋼材，形鋼，小形棒鋼

平成21年度における需要量実績は，普通鋼鋼材が前年度比18.2%減少の1,738万t，うち形鋼が前年度比22.0%減少の370万t，小形棒鋼は前年度比15.6%減少の736万tであった。平成22年度については，普通鋼鋼材が前年度比0.5%減少の1,730万t，うち形鋼が5.5%増加の390万t，小形棒鋼が2.2%減少の720万tと見通される。

⑥ アスファルト

平成21年度における需要量実績は，前年度比22.3%増加の230万tであった。平成22年度については，前年度比21.8%減少の180万tと見通される。



5 主要建設資材需要量の推移

主要建設資材の国内需要量推移を表 2 および図 2 に示す。各主要建設資材の需要量実績，需

要見通しの対象は，次の(1)~(8)のとおりである。

(1) セメント

国内メーカーの国内販売量に海外メーカーからの輸入量を加えた販売等の量を対象としている。

「内需要」=「国内販売量」+「輸入量」。

なお，表 2 および図 2 の平成21年度までは実績値で，社団法人セメント協会の「セメント需給実績」の値を用いている。

(2) 生コンクリート

全国生コンクリート工業組合連合会組合員工場の出荷量とその他の工場の推定出荷量とを加えた出荷量を対象としている。「出荷量」=「組合員工場出荷量」+「その他工場推定出荷量」。

なお，表 2 および図 2 の平成21年度までは実績値で，全国生コンクリート工業組合連合会・協同組合連合会の「出荷実績の推移」の値を用いている。

表 2 主要建設資材の

	セメント (内需要)		生コンクリート (出荷量)		骨 材 (供給量)		砕 石 (出荷量)	
	千t	前年度比(%)	千m <sup>3</sup>	前年度比(%)	千m <sup>3</sup>	前年度比(%)	千m <sup>3</sup>	前年度比(%)
3年度	85,287	1.2	192,182		574,375	3.2	287,875	0.7
4年度	78,616	7.8	181,958	5.3	557,500	2.9	281,688	2.1
5年度	82,142	4.5	172,615	5.1	540,000	3.1	266,250	5.5
6年度	79,743	2.9	175,773	1.8	532,500	1.4	259,938	2.4
7年度	80,377	0.8	175,723	0.0	530,625	0.4	258,875	0.4
8年度	82,417	2.5	180,256	2.6	538,750	1.5	275,125	6.3
9年度	76,573	7.1	167,292	7.2	512,500	4.9	253,250	8.0
10年度	70,719	7.6	153,308	8.4	459,375	10.4	228,688	9.7
11年度	71,515	1.1	151,167	1.4	455,625	0.8	222,438	2.7
12年度	71,435	0.1	149,483	1.1	458,750	0.7	219,156	1.5
13年度	67,811	5.1	139,588	6.6	466,250	1.6	209,089	4.6
14年度	63,514	6.3	131,413	5.9	442,500	5.1	191,503	8.4
15年度	59,687	6.0	123,735	5.8	414,237	6.4	179,269	6.4
16年度	57,569	3.5	118,982	3.8	368,750	11.0	165,265	7.8
17年度	59,089	2.6	121,549	2.2	343,130	6.9	164,219	0.6
18年度	58,985	0.2	121,903	0.3	340,000	0.9	166,472	1.4
19年度	55,506	5.9	111,881	8.2	317,500	6.6	153,620	7.7
20年度	50,087	9.8	101,009	9.7	285,000	10.2	136,110	11.4
21年度	42,732	14.7	86,030	14.8	237,000	16.8	113,950	16.3

(注) 1. 各資材の需要量は四捨五入して算出しているため，各月の合計と年度計とは一致しない。  
 2. 前年度比欄の はマイナス。  
 3. 骨材・砕石は，平成20年度までは実績値，平成21年度は推計値(斜体)で，経済産業省「砕石等統計年報」「骨材需給表」をもとに算出。

(3) 骨 材

国内における供給量を対象としており、輸入骨材も含んでいる。

なお、表 2 および図 2 の平成20年度までは実績値で、経済産業省の「骨材需給表」をもとに算出した値である。平成21年度は推計値で、経済産業省の「骨材需給表」「砕石等統計年報」をもとに算出した値である。

(4) 砕 石

メーカーの国内向け出荷量を対象としている。

なお、表 2 および図 2 の平成20年度までは実績値で、経済産業省の「砕石等統計年報」の値を用いている。平成21年度は推計値で、経済産業省の「砕石等統計年報」をもとに算出した値である。

(5) 木 材

国内メーカーの製材品出荷量を対象としており、建設向け以外の量を含んでいる。また、製材

用素材として外材を含んでいる。

なお、表 2 および図 2 の平成21年度までは実績値で、農林水産省「製材統計」の値を用いている。

(6) 普通鋼鋼材および形鋼

国内メーカーの国内建設向け受注量を対象としている。

なお、表 2 および図 2 の平成21年度までは実績値で、社団法人日本鉄鋼連盟の資料の値（国内向け受注総量から国内建設向け受注量を推計したもの）を用いている。

(7) 小形棒鋼

国内メーカーおよび国内販売業者からの国内建設向け出荷量を対象としている。ただし、海外メーカーからの輸入量は含まれていない。

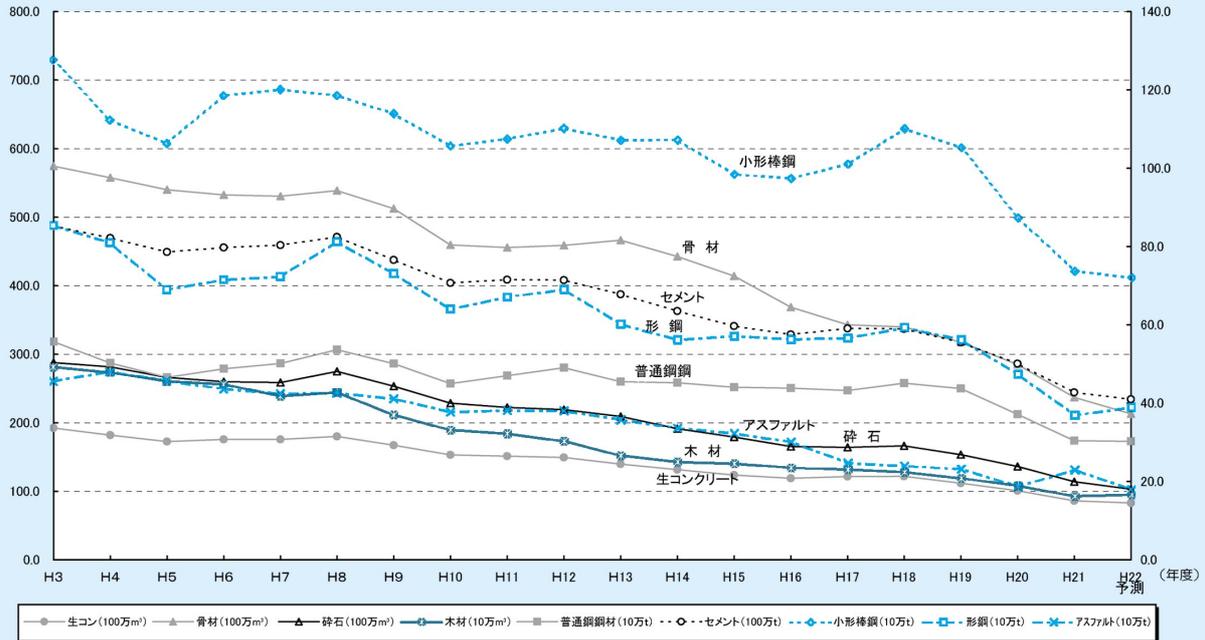
なお、表 2 および図 2 の平成21年度までは実績値で、経済産業省「鉄鋼需給動態統計」と社団法人日本鉄鋼連盟の資料の値を用いている。

国内需要量実績の推移

木 材 (製材品出荷量)		普通鋼鋼材 (建設向け受注量)		形 鋼 (建設向け受注量)		小形棒鋼 (建設向け出荷量)		アスファルト (建設向け等内需要)	
千m <sup>3</sup>	前年度比 (%)	千t	前年度比 (%)	千t	前年度比 (%)	千t	前年度比 (%)	千t	前年度比 (%)
28,107	6.0	31,812	12.0	8,522	15.8	12,742	14.1	4,558	2.4
27,324	2.8	28,715	9.7	8,093	5.0	11,212	12.0	4,800	5.3
26,022	4.8	26,633	7.3	6,892	14.8	10,615	5.3	4,573	4.7
25,592	1.7	27,876	4.7	7,141	3.6	11,837	11.5	4,361	4.6
23,880	6.7	28,667	2.8	7,226	1.2	11,988	1.3	4,243	2.7
24,395	2.2	30,659	6.9	8,114	12.3	11,836	1.3	4,266	0.5
21,103	13.5	28,642	6.6	7,303	10.0	11,373	3.9	4,117	3.5
18,924	10.3	25,715	10.2	6,399	12.4	10,554	7.2	3,777	8.3
18,396	2.8	26,863	4.5	6,704	4.8	10,726	1.6	3,823	1.2
17,282	6.1	28,024	4.3	6,896	2.9	11,001	2.6	3,804	0.5
15,196	12.1	26,004	7.2	6,011	12.8	10,695	2.8	3,580	5.9
14,270	6.1	25,828	0.7	5,615	6.6	10,700	0.0	3,366	6.0
14,042	1.6	25,177	2.5	5,704	1.6	9,827	8.2	3,229	4.1
13,446	4.2	25,066	0.4	5,623	1.4	9,725	1.0	3,014	6.7
13,161	2.1	24,703	1.4	5,659	0.6	10,089	3.7	2,478	17.8
12,791	2.8	25,781	4.4	5,926	4.7	10,991	8.9	2,400	3.1
11,912	6.9	24,984	3.1	5,614	5.3	10,508	4.4	2,323	3.2
10,809	9.3	21,240	15.0	4,738	15.6	8,722	17.0	1,882	19.0
9,282	14.1	17,384	18.2	3,696	22.0	7,360	15.6	2,302	22.3

出典 ・セメント...社団法人セメント協会（セメント需給実績）  
 ・木材...農林水産省資料（製材統計）  
 ・アスファルト...石油連盟資料（石油アスファルト統計月報）  
 ・生コンクリート...全国生コンクリート工業組合連合会・協同組合連合会（出荷実績の推移）  
 ・普通鋼鋼材、形鋼、小形棒鋼...社団法人日本鉄鋼連盟資料

図 2 主要建設資材需要量の年度推移



(注) グラフの見方・実線(生コンクリート, 骨材, 砕石, 木材, 普通鋼鋼材)については左軸, 点線(セメント, 小形棒鋼, 形鋼, アスファルト)については右軸を参照。

- ・平成21年度の需要量は, 骨材, 砕石については, 第3四半期までは実績値, 第4四半期につき推計値, アスファルトについては, 見込み値, その他の資材については実績値。
- ・平成22年度の需要量は, 見通しの値。

《資料出所》 セメント...社団法人セメント協会(セメント需給実績)  
 生コンクリート...全国生コンクリート工業組合・協同組合連合会(出荷実績の推移)  
 骨材...経済産業省(骨材需給表)

砕石...経済産業省(砕石統計年報)  
 普通鋼鋼材...社団法人日本鉄鋼連盟 資料  
 形鋼...社団法人日本鉄鋼連盟 資料  
 小形棒鋼...社団法人日本鉄鋼連盟 資料  
 アスファルト...石油連盟(石油アスファルト統計月報)

(8) アスファルト

国内メーカーの建設向けストレートアスファルト内需量のうち, 燃烧用および工業用を除いた国内建設向け等内需量を対象としている。「建設向け等内需量」=「国内建設向け内需量」+「建設向け輸入量」。

なお, 表 2 および図 2 の平成21年度までは実績値で, 石油連盟の「石油アスファルト統計月報」の値を用いている。

6 おわりに

当課では, 毎年行っている「主要建設資材需要見通し」以外に, 「主要建設資材月別需要予測」および「主要建設資材需給・価格動向調査」を毎月公表し, 建設資材の需給に関する情報提供を行っている。

主要建設資材需要見通しは, 国土交通省のホームページ(統計情報のページ)で公表しているので参照されたい。(http://www.mlit.go.jp/statistics/details/index.html)